

二〇二六年四月一八日

木道に日の斑を落す新樹かな
電柱の片影頼みメール打つ
紐解ける亡母の句帳や鳥雲に
泣き相撲みんな勝者や初端午
石ひとつ動かす下に物芽出づ
チューリップ午後の陽気に惚けけり

二〇二六年四月一七日

白山の見そなはしるる植田かな
さざなみに溺れそうなる早苗かな
天つ藤大樹をのぼりつめめにけり
筍の第一便は地産もの
桜薬行年読めぬ墓碑に降る

二〇二六年四月一六日

長閑けしや玻璃のビル過ぐ千切れ雲
小径ゆく新樹のシャワー浴びながら
藤房に虻の羽音のハーモニー
眼福や裏参道の若楓

二〇二六年四月一五日

万緑の真つただ中や下り坂
飛花落花ベンチの吾を洗礼す
落花ごと掬ふ一杓明王へ
木道の狭間狭間に山堇
疾風めく特急通過花吹
御衣黄を見つけて嬉し通り抜け

二〇二六年四月一四日

一村の命と頼む雪解水
春山路地獄の釜に触れてみる
立てる今歩ける今や青き踏む
捨鉢の頼もし松の若みどり
釣釜の揺れつつ進む点前かな
目つぶしの日矢また日矢や若楓

二〇二六年四月一三日

大鍋の湯玉に遊ぶ小筍
蛇のゆく花の迷路や通り抜け
一村に三寺のありて燕来る
野遊びの子らに招かれお客様
廟に差す太き線香夕永し

二〇二六年四月一二日

苔むして石仏おはす新樹影
百千鳥五百羅漢の千の耳
陽炎や路面電車の石畳
鏡池覆ふばかりに青楓

毎日句会みのる選・二〇二六年四月二〇日

むべ なつき たか子 康子 みきお
花茗荷 みきお うつぎ 風民
うつき 風民 よし女 千鶴
康子 やよい なつき むべ
あひる うつき

みきお 伸枝 愛正 風民 康子
せつ子 うつき よし女 明日香 風民
うつき 伸枝 澄子 康子